

最上川総合水系環境整備事業 事業再評価

説明資料

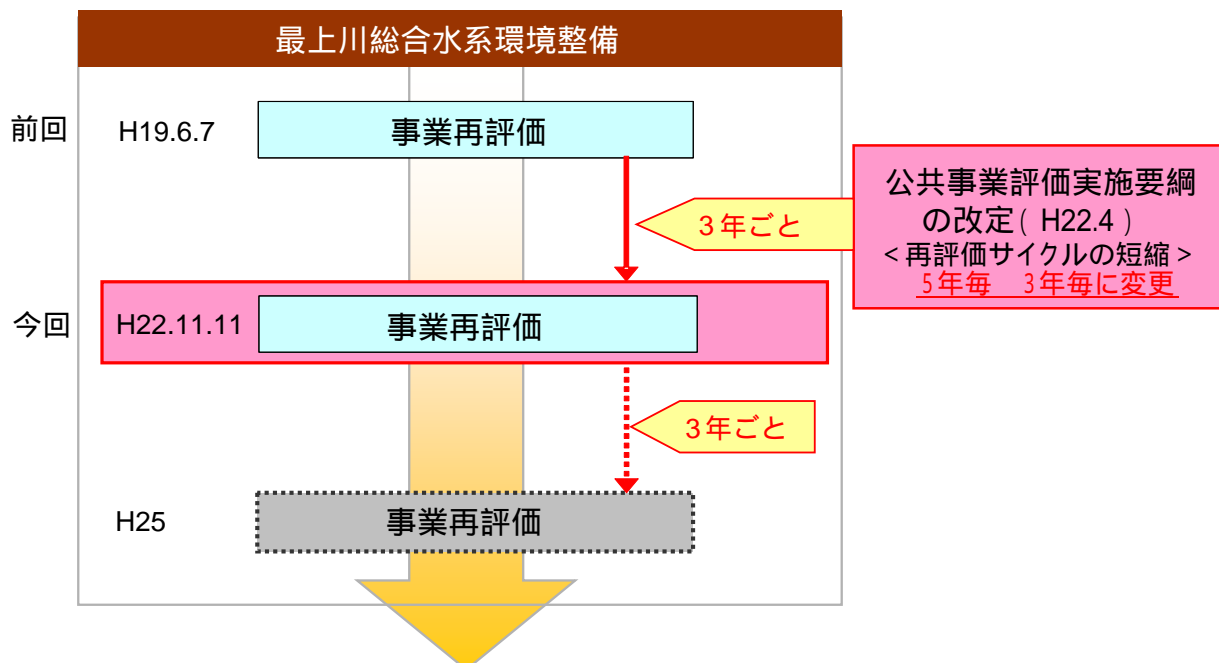
平成22年11月

国土交通省 東北地方整備局
山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所

1. 事業再評価の趣旨説明

事業再評価とは、税金を投入して実施した事業、あるいはこれから実施する事業について、現時点の状況を踏まえて、その妥当性、すなわち、投資した税金分の効果・メリットがあるかどうか、について検証し評価すること。

事業再評価を行う間隔は、これまで5年間に1度だったが、今年度から3年間に1度に変更になり、評価するサイクルが短くなった。



2.環境整備事業について

【河川の環境整備事業】

水質や水量に関する事業
河川の水量改善に関する対策など



自然の再生に関する事業
魚類の遡上・降下環境の改善など



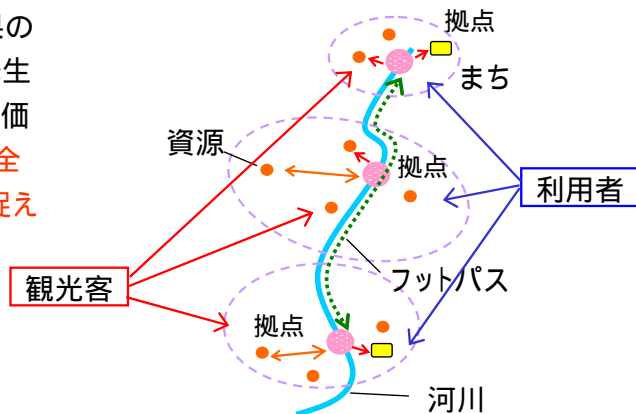
堰や落差工に設けた「魚道」の事例

水辺の整備に関する事業
散策路や親水護岸等の整備など



【評価の単位】

環境整備の効果の発現は広域で発生することから、評価についても**水系全体**を一つとして捉えて評価。



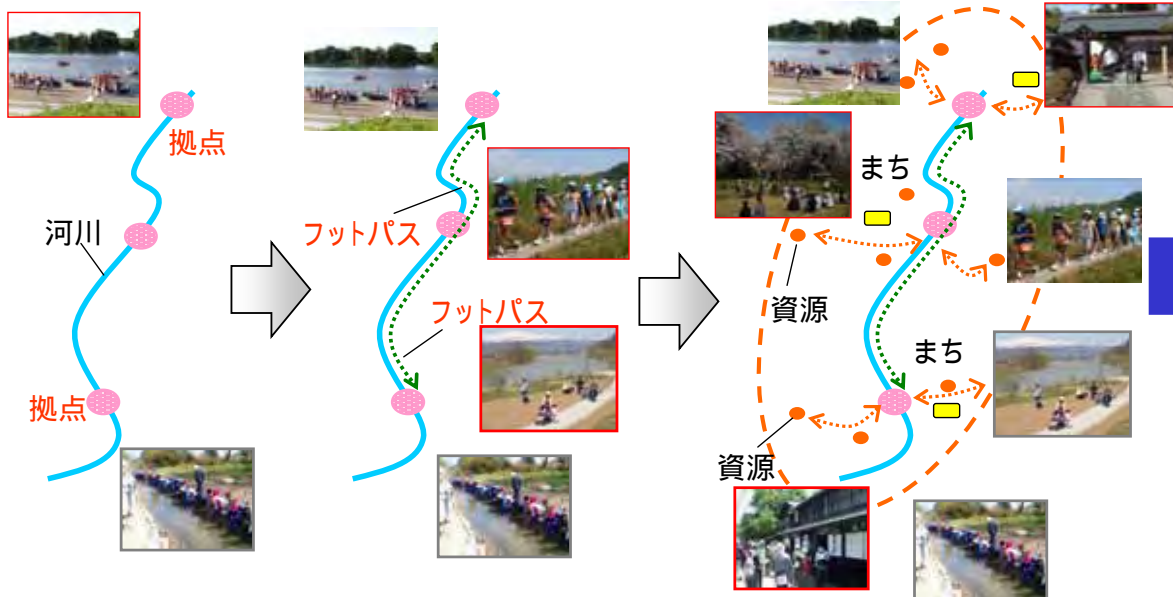
3.事業の目的と概要

本事業の目的は、「豊かでうるおいのある河川空間の創造を目的に、河川の自然環境の保全、河川利用の推進等を図るもの」として、平成7年度から実施。

拠点整備が主体

「フットパス」の整備により、点から線へ

「かわまちづくり」により、線から面へ



4. 整備内容(整備済み)

整備内容・・・管理用通路、低水護岸、階段 等



管理用通路（散策路）



階段工（散策路）



低水護岸（親水護岸）

水辺プラザ



中山地区



寒河江地区



谷地地区



朝日地区(玉ノ井)

水辺の楽校



糠野目水辺の楽校



窪田水辺の楽校

4

5. 整備内容(整備済み)

フットパス



長井



白鷹



大江



村山

寒河江

かわまちづくり



朝日地区



白つつじマラソン



アルクセッション

フットパスを利用した各種イベント

5

6.整備中箇所(長井地区かわまちづくり)

「水と緑と花」をコンセプトとしたまちづくりを実施するとともに、「かわ」と「まち」をつなぐ
 フットパス等を整備。更なる観光振興・地域活性化のため、まちと水辺が一体となった
 「舟運時代の川港として栄えた歴史を活かしたまちづくり」を進める。



整備内容…管理用通路、管理用階段、低水護岸、側帯 等



フットパスを利用したイベント

舟運で栄えた商家跡などが残されている市街地

地区住民によるトロッコ道
 (管理用通路) 開通式



最上川リバーツーリズムセミナー



長井地区かわまちづくり協議会

7.整備予定箇所(河北町かわまちづくり)

河北町は舟運による「べに花」交易で栄えたまちであり、歴史ある建物や文化が、
 町のいたるところに多く残されている。これらの歴史を偲ぶキーワードをつなぎあわせ
 ることによって、川、町、文化一続きの物語をつくるとともに、改めて、最上川とべに花、
 ひななどを資源として広く人々と交流していくことで、地域の活性化を進めていく。



整備内容…管理用通路、低水護岸、階段 等



まちなかの賑わい

ひな人形



ひなの湯



カヌー体験



かわまちづくりWS・現地視察

8.整備予定箇所(清川地区かわまちづくり)

清川地区は最上川、立谷沢川の合流点に位置し、町には、最上川舟運によって往来した松尾芭蕉、正岡子規等の文人墨客の足跡が残されている。これらの川にまつわる歴史・文化が色濃く残る「まち」と「かわ」とをつなぎ、舟運時代の歴史を感じながら、かわとまちに人々が賑わう、かわまちづくりを推進することで、地域活性化に寄与する。

清川地区かわまちづくり 事業概要

親水公園(町整備)



清河八郎神社



「松尾芭蕉」立像と句碑



整備内容・・・管理用通路、低水坂路、避難誘導板 等

「歴史の里清川」
健康ウォーキング



小学校川遊び



かわまちづくり検討会



最上川・立谷川夏祭り

9.整備予定箇所(須川地区かわまちづくり)

須川は、地域交流の場や健康増進の場としての活用が進んでいるとともに、「かわを活かした地域づくり」の活動なども広がりを見せている。須川の自然環境、沿川の歴史や文化を身近なものとして、健康で充実した生活を送り、人々が賑わうことを目的としたかわまちづくりを推進し、地域活性化に寄与する。



お達磨の桜



船町の河岸跡



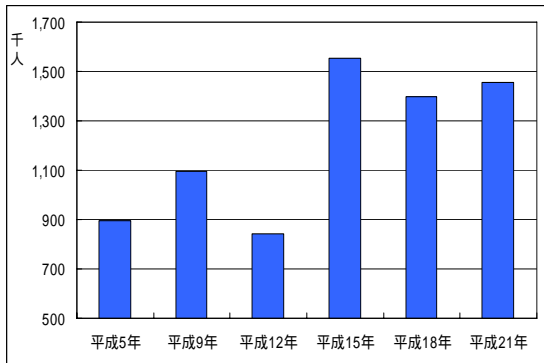
かわまちづくり勉強会

整備内容・・・管理用通路、高水敷整正、低水護岸 等

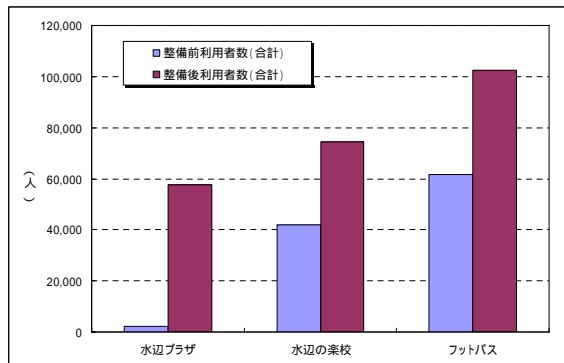
10.整備による利用者数

最上川全体の年間利用者の推移は、増加傾向にある。

整備済み箇所の利用者についても、全体的に整備により増加している。



最上川水系全体の年間利用者の推移



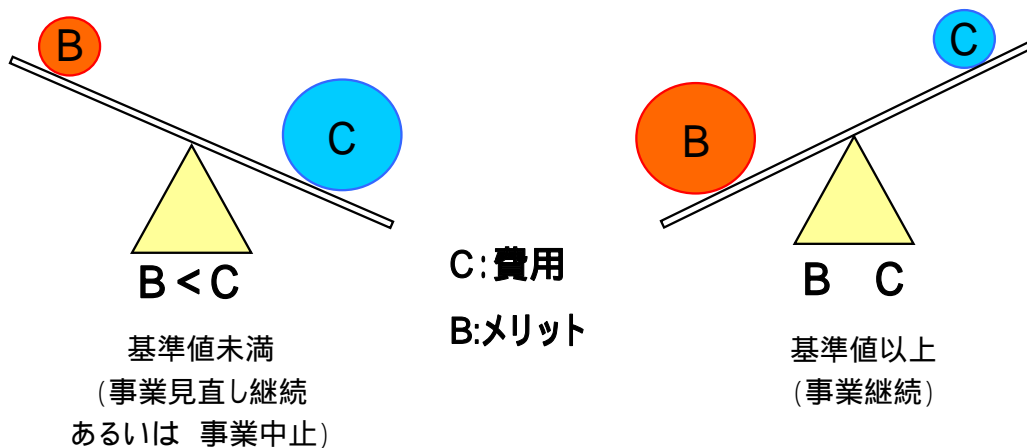
整備内容別の整備前後の利用者数の変化

10

11.費用便益分析(評価手法と、便益、費用について)

「費用便益分析」とは、投資する費用に対する、整備による効果・メリットについて、お金の換算して、事業の効率性について評価するもの。

効果・メリットについては、例えば治水事業であれば、河川改修により解消される浸水による被害額が該当するが、今回の環境整備については、**整備されることで、より多くの人々が来て、利活用することがメリット**となるので、この整備後の利用価値をお金に換算して「費用便益分析」を行っている。



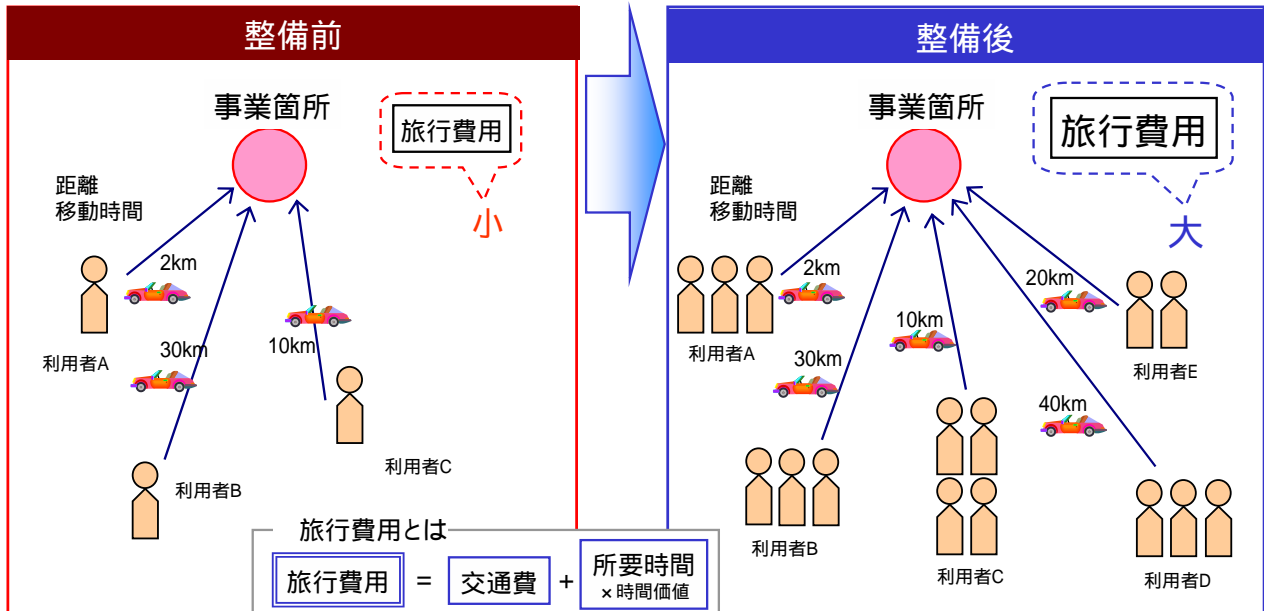
事業効率性の判断基準値 $B / C = 1$

11

12.費用便益分析(TCM手法の概要)

費用便益分析の手法としては、**TCM法**という手法を用いている。

利用者が事業箇所に来るために費やしている交通費と所要時間からなる旅行費用データを活用して、事業の実施により魅力が向上した事業箇所に対し、利用者全体がその場所に行くために支払っても良いと考える総額の増加分を、整備によって得られる利用価値、すなわちメリットであると仮定して算出する方法。



12

13.費用便益算定結果(全体)

整備箇所全体におけるB/Cは3.9と算定

B/Cが1を上回っていることから整備による効果が上がっている

建設費 (億円)	総便益B (億円)	総費用C (億円)	B/C
49	285	73	3.9

13

14.費用便益算定結果(残事業・完了地区)

残事業については、現在整備中のもの及び今後整備する予定のものに対する投資効率性を把握するもの。すなわち、今後の税金の投入による投資効果を把握することを目的としている。

残事業

建設費 (億円)	総便益B (億円)	総費用C (億円)	B/C
9.2	81	9.6	8.5

完了地区

建設費 (億円)	総便益B (億円)	総費用C (億円)	B/C
36	204	60	3.4

14

15.地域の協力体制

クリーンアップ活動等



最上川クリーン作戦・河川清掃

フットパス周辺の草刈り

かわまちづくりに関する勉強会・協議会等



長井地区の協議会

須川地区の勉強会

河北町のWS

清川地区の検討会

15

16.地域の社会的評価

整備箇所における各種環境学習や体験学習・イベント、「川の通信簿」の状況



マコモ植栽
(窪田水辺の楽校)



カヌー体験(谷地)



白つつじマラソン(長井)



野外学習(真室川)



カヌー大会(朝日)



幻の左荒線ツアー
(白鷹・朝日・大江)



花ウォーク(長井)



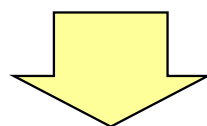
「川の通信簿」実施状況

16

17.対応方針(案)

整備済み箇所については、地元自治体やNPO等が主催するイベントや沿川小学校の環境学習などで活用されているとともに、地域住民等によって自発的な除草や清掃が行われるなど、河川愛護の意識が高まってきており、事業の効果が認められる。

整備中や整備を予定している箇所においても、地元自治体等から事業推進の要望活動が行われるなど、更なる事業の推進が期待される。



事業継続